

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000489		
法人名	社会福祉法人聖水会		
事業所名	グループホームおすず		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北5484番地1 (電話) 0983-25-1509		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月25日	評価確定日	平成21年7月30日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念の実現に、管理者、職員は日々取り組んでいる。法人内職員による栄養指導や参考資料の提供など、必要な援助が行われ、ホームの理解と協力体制が伺われる。また、新人研修や危機管理、防災訓練などは、法人と一緒に取り組んでいる。地域密着型のホームのあり方について、職員や運営推進会議で取り組み、地域の理解と協力を得ながら、利用者にとって、さらに安心して暮らせるグループホームとして、常に積極的な運営をめざしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 課題となった4項目の全てについて、改善シートのおおりに改善がなされていた。地区住民やホーム近くに住む法人職員による災害時協力員が組織化され、緊急や夜間の災害時の初期対応の仕組みが構築されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 外部評価の目的や自己評価の意義を理解させるために、毎月の学習会の内部研修の仕組みがある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 今年度は2か月ごとに開催し、外部評価の結果や課題となった改善事項について報告及び検討が行われている。なかでも、委員である自治会長が、災害時の地域住民の協力要請について、職員と全戸訪問に同行し、「災害時協力員名簿」が作成されたことは、大きな成果である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 開設当初から家族会が2か月ごとに開催され、和気あいあいとした雰囲気の中、出された家族の意見が取り上げられている。家族会の代表者が運営推進会議に出席されているが、今後は、家族会の開催を運営推進会議と合わせ、より幅広い意見の交流ができるよう検討されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の年間行事である、敬老会や保育園の夕涼み会に招待されている。公道に面した非常口を開放後は、保育園児や通行者とのあいさつや声掛けができるようになり、楽しみにもなっている。

## 【情報提供票より】（平成21年5月25日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 2年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算7.8人	

### （2）建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階部分

### （3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### （4）利用者の概要(平成21年5月25日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	0	要介護2	1
要介護3	5	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 88歳	最低 81歳	最高 98歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	都農町立国保病院、ながとも医院、黒木康夫歯科医院
---------	--------------------------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりのペースを大切に、その人らしさを大切に」と事業所の理念が作られ玄関に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の異動もあり、全員が理念の共有と実践に向け、毎月の研修会で繰り返し取り上げている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の敬老会や盆おどり、保育園の夕涼み会の行事に招待され参加している。公道に面した非常口を開放したことで、通行する近隣者との日常的なあいさつなどが活発になった。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、運営者や推進委員、職員の全てに理解されており、管理者の努力が伺える。前年度の外部評価の課題となった事項には、費用負担やマンパワーを要する事項もあったが、全て改善に向けた取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開催されている。災害時協力体制や利用者の自治会への参加が、委員の役割発揮により実現できた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、ホームに直面した事項だけでなく、利用者にとってサービスの質の向上になる情報についても、町担当者と相談をこまめに行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や面会時に、利用者個々の報告や預かり金支出報告と確認が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は開設当初からつくられており、2か月ごとに会が開催され、家族同士や職員が遠慮なく話し合える関係ができています。反面、町外の家族の出会いがなく、欠会者への情報が少ない。	○	欠会しても家族会の状況がわかるように、利用者の近況写真や家族会内容を同封した文書による情報を発信していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期異動は最小限に抑えており、定年退職者には再任用制度がある。認知症介護の経験が少ない職員には、研修参加計画や先輩職員や管理者による指導が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、新任職員研修やその他の合同研修が計画されている。外部研修は、知識の習得の他、上位の資格取得を希望すれば積極的に参加できる仕組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	児湯郡内のグループホーム交流研修会には、管理者対象、スタッフ対象にそれぞれ参加し、勉強会や情報交換で役立つ情報をホームの運営に取り入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があればいつでも見学を受け入れており、家族や本人が納得後に申し込みが開始されている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を知り、人生の先輩としての尊敬の念で接し、うれしい時は共に喜び、不安な様子がある時は寄り添い、共に支え合う関係作りに気を配っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握するため傾聴している。意志の疎通が困難な場合には、家族と共に把握できるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや日々の暮らしから、利用者本位の介護計画を作成するために、主治医の意見を反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとの定期的な見直しの他、必要に応じて話し合いがなされ、介護計画が変更されている。家族への確認も行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	持病の悪化やADL（日常生活動作）の低下のために、デイキャンプやドライブに参加できなくなった利用者には、法人内の他施設で一次預かりや、管理栄養士の指導など、柔軟な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診にあたっては、職員も同行している。利用者の生活に応じた支援が、医師の指示に基づいて行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	地域性や医療を受けて最後をみとりたいとの家族の希望がある。法人内の老人保健施設での受け入れ態勢、ホームの職員の力量等を総合して、現時点での積極的な終末期の方針は出していない。家族には、選択できる情報提供が行われ相談に対応する意向である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	言葉かけや接し方には、その人の誇りを損なわないよう気遣われているが、日常的に行われている口腔ケアでは配慮が求められる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその日の過ごし方の希望に沿った支援を行うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は希望を取り入れたり、家族から野菜などの提供を生かしながら柔軟に対応している。そしゃくやえん下困難者にはトロミで摂取できる手間をかけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2名の介助を必要とする利用者が多いが、喜んで入浴できるように工夫している。現在の浴槽は高齢者が入浴するには構造上の課題があり、さらには介護者の身体的負担の軽減も必要である。洗身用椅子の導入等により、工夫されることを期待したい。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室は、職員と共に掃除をするようにしている。洗濯物干しやたたみ方、食台拭きなどの役割に参加してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天でなければ、1日1回は散歩や買い物に外出の機会が持たれている。外出できない利用者は、外気浴が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	去年は施錠されていた非常口が開放され、椅子に座りゆったりとくつろぎながら、保育園児や通行者とあいさつできることが、利用者の楽しみであり、いつまでもその場から離れない光景がみられた。		

宮崎県都農町 グループホームおすず

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急や夜間の災害時の地域住民の支援について、全戸訪問され全世帯の構成員の同意を得て、ホーム近くに居住する法人職員も巻き込み「災害時協力員名簿」を基に緊急連絡網が構築されている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の指導や助言により、柔軟に変更できる献立表も用いられている。看護職の職員もおり毎日の食事摂取や水分の観察、体重測定による健康、栄養観察が行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやテレビのある和室にはソファも置かれ、過ごしやすい工夫がされている。構造上、玄関を開けると建物内に風が通り抜け、体感的に涼しさが感じられたが、網戸がなく、害虫の侵入予防のため閉められている。	○	玄関はホームの駐車場に面しており、プライバシーの保護上も問題はないと思われるので、網戸等で、内から外が見える開放感と風通しを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により利用者負担でベッドか畳で就寝されている。畳は1畳しかなく、毛布や掛け布団は畳からはみ出し床に接触している。	○	畳かベッドかはそれぞれの長所や利用者の好みがあり、選択できることは尊重すべきである。しかし、現状では課題が多いので、少なくとも畳2畳は必要と思われるので検討していただきたい。

※  は、重点項目。